

1. 事業箇所 位置図

松崎港 港湾改修事業 事後評価



交通基盤部 港湾局 港湾整備課

2. 事業概要 ①事業目的



【事業目的】
新港と旧港とで機能分担により、生活環境の改善、物流の効率化と安全確保を図る。

2. 事業概要 ②事業概要



【事業概要】

事業期間：平成4年度～平成21年度

事業費：48.7億円

事業内容：防波堤 L=475m、岸壁(-6.0m) L=130m、岸壁(-5.5m) L=100m
道路 L=148m、駐車場 A=4,610m²、野積場 A=2,367m²
緑地 A=4,470m²

3. 事業効果(市街地の交通障害の解消)

<整備前>



市街地を走行する石材運搬ダンプ

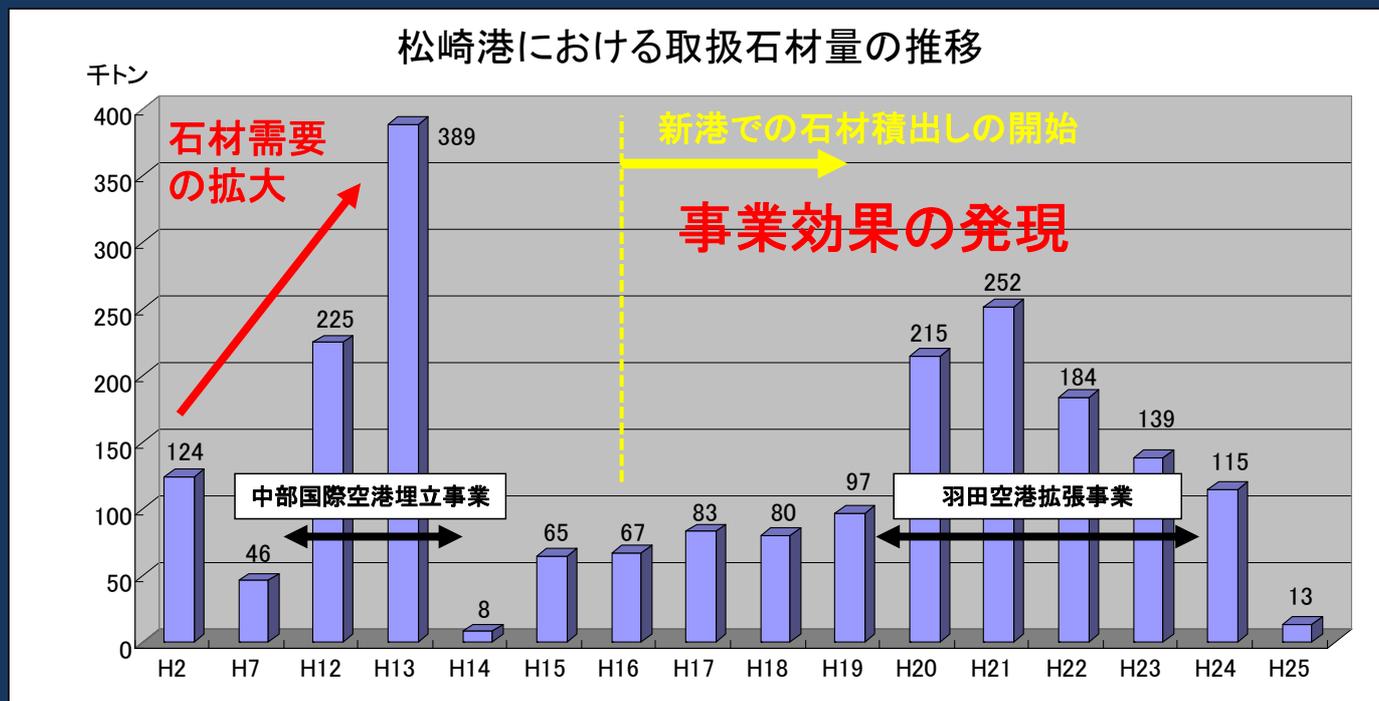
<整備後>



新港での石材積出し作業状況

物流機能を新港に移転したことにより、石材運搬車両の市街地走行がなくなり、交通障害が解消された。

3. 事業効果（取扱石材量の推移）



平成16年度には、整備途上で新港から石材の積出しを開始し、事業効果が早期に発現。

3. 事業効果（交流機会の増加）

＜港湾緑地の利用状況＞



「伊豆トレイルランニングレース」のスタート地点としての利用状況

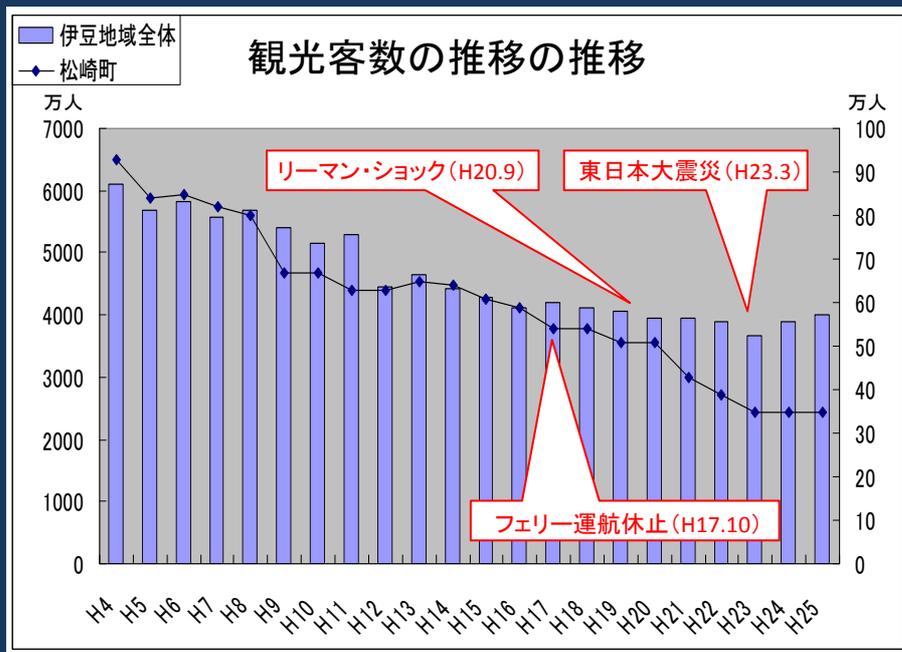
＜協働による地域振興の取組み＞



ポートサポーター制度の活用による、美化活動や地域活性化イベントの実施

各種イベント会場としても活用され、観光・交流機会の増加とともに、地域住民との協働により、美化活動や地域振興の取組みが活発化した。

4. 社会経済情勢等の変化（観光客数の低迷等）

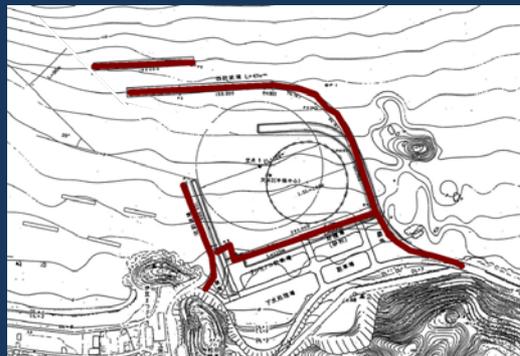


新港への防災船「希望」の接岸
 (平成17年3月)
 清水港～下田港において運航していたフェリーは平成17年10月以降運航を休止

観光客数の低迷等の影響を受け、新たな航路の誘致には至っていない。

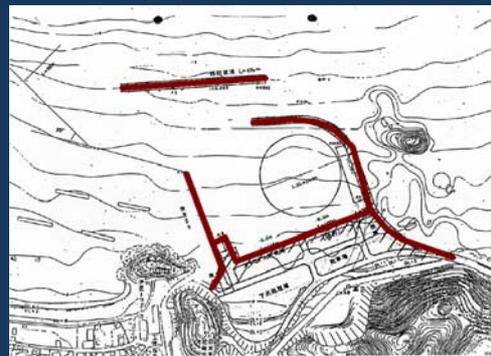
4. 社会経済情勢等の変化（事業計画の推移）

<平成4年度>



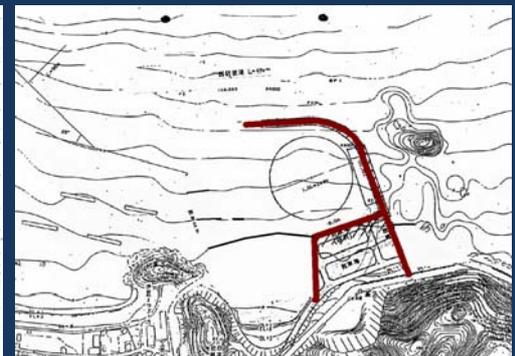
当初計画
 岸壁(-6.0m) 135m
 岸壁(-5.5m) 100m

<平成10年度>



国の施策変更を受け変更
 岸壁(-6.0m) 100m
 岸壁(-5.5m) 115m

<平成17年度>

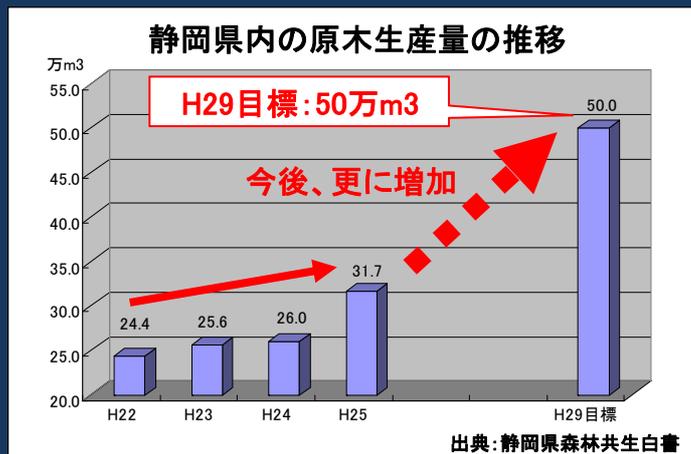


防災船希望の廃止を受け変更
 岸壁(-6.0m) 100m
 岸壁(-5.5m) 100m

事業着手後の社会経済情勢等の変化を踏まえ、事業効果を検証し、計画規模の見直しを行っている。

4. 社会経済情勢等の変化(新たな利活用)

<木材生産量の増加>



<木材の海上輸送>



松崎港から伊豆地域の木材を海上輸送するトライアルが平成26年1月と6月に実施され、平成27年度も実施予定

近年、静岡県内の木材生産量は増加傾向であり、平成29年の目標生産量は50万m³

木材生産量の増加を受け、木材は石材に代わる新たな物流として期待される。

5. 事業の投資効果(費用対効果の検証)

総費用(C)	90.33億円 (現在価値換算)
全体事業費	89.38億円
維持管理費	0.95億円

総便益(B)	57.18億円 (現在価値換算)
輸送便益	13.17億円
交流・レクリエーション便益	17.61億円
安全便益	20.77億円
港湾整備費用節減	5.63億円



総費用(C)に対する総便益(B) $B/C=0.63$

6. 対応方針(案)

(1) 本事業に関する効果

本事業の実施により、

- ・新港と旧港との機能分担により、石材運搬車両の市街地走行がなくなり交通障害が解消された
- ・防災拠点としての機能が強化され、また、多機能になった
- ・観光、交流機会の増加が図られた

6. 対応方針(案)

事業効果の発現が十分ではないが、今後時間の経過により効果の発現が期待できる。

(2) 今後の対応(例)

- ①「富士山」、「伊豆半島ジオパーク」等の観光資源を活用した、チャーター便、クルーズ船等の誘致
- ②利用客が増加している静岡空港からの観光客の誘致を目指した、新たな海上交通ネットワークの開設
- ③木材の海上輸送の拠点としての利活用の推進



「松崎新港湾利用検討委員会」の体制の強化と活動の活発化により、一層の利用推進を図る。